

日本大学国際関係学部生活科学研究所  
平成30年度シンポジウム 報告

Report on the 2018 Symposium  
The Research Institute of Science for Living  
College of International Relations, Nihon University

世界の食事情から考える  
**食べることの意味**

# The Significance of Diet

Considering from the Various Situations in the World

平成30年度 日本大学国際関係学部生活科学研究所 シンポジウム

## 世界の食事情から考える 食べることの意味

日時 : 平成30年12月7日(金) 10時45分～16時15分

会場 : 日本大学国際関係学部 三島駅北口校舎 山田顕義ホール

### 【第1部】 10:45～12:15 研究発表 「世界の食の現在」

#### ①「パラオの食生活から学ぶこと」

日本大学短期大学部食物栄養学科 葛城裕美准教授

#### ②「雑草を増やし、食べる—アフリカにおける農業支援と現地の嗜好—」

日本大学国際関係学部国際教養学科 八塚春名助教

#### ③「食品ロスから貧困支援へ—日本の場合—」

日本大学国際関係学部国際総合政策学科 眞嶋麻子助教

### 【第2部】 13:00～14:30 講演 「世界の飢餓を救うために—支援の現場から—」

WFP(国連世界食糧計画)日本事務所代表 焼家直絵 氏

### 【第3部】 14:45～15:15 講演 「信仰と食—ハラールから考える—」

静岡ムスリム協会事務局長 アサディ みわ氏

### 15:15～15:40 研究発表 「世界の食の現在」

#### ④「癒しとしての食—心理学から考える—」

日本大学国際関係学部国際教養学科 伊坂裕子教授

### 15:40～16:15 発表者によるディスカッション

コーディネーター 日本大学短期大学部食物栄養学科 篠原啓子准教授



ディスカッションの様子 左より  
篠原准教授、葛城准教授、八塚助教、  
眞嶋助教、アサディみわ氏、伊坂教授